

紙上採録 中学入試対策セミナー

～我が子にあった学校と勉強法の見つけ方～

6月23日、東京・千代田区のイノホールで「中学入試対策セミナー」が開催された。当日は朝から約500人の保護者や親子連れが来場。講演やパネルディスカッションに加え、ロビーでは個別相談会も開かれ、会場は終始熱気に包まれていた。

先輩パパ・ママ座談会『中学受験合格への軌跡』

～我が子の合格のために保護者ができた事～

（パネリスト）中学受験を終えた保護者5人、金子智之氏

（コーディネーター）友澤和子（朝日新聞社 総合プロデュース室プロデューサー「寺子屋朝日」編集長）

パネルディスカッション

小學生時代の僕は、優等生ではあったのですが、実は2年生のときに九十九の7の段でまづきまして（笑）。以来、算数が大の苦手で、得意な国語や社会は勉強するのに、算数は放つたらかし。成績は次第に頭打ちになり、5年生の冬にはライバルの友達にも追い抜かれるようになりました。

受験への意識が芽生えた6年生になってようやく、「どうやって算数を勉強すればいいのか」を親と担任の先生に相談しました。先生がアドバイスしてくれたのは、復習の重要性や答案用紙の論理的な書き方について。そして両親は、間違えた問題をコピーして切り貼りした「復習ノート」を作ってくれるようになります。勉強そのものに取り組む

学校選びは子どもの主体性を重視して

友澤 志望校選びの決め手は何でしたか。

A（母）娘は無類の読書好きでとてもマイペース。この個性を受け止め、伸ばしてもらえる環境として、中高一貫校の受験を考えるようになります。決め手は、学校説明会で感じたのはほんとした校風と、娘自身が文化祭で「目ぼれしたこと」です。

B（母）塾の友達の影響を受けて、息子が「僕もこの学校を受けたい」と言い出したことがきっかけです。実は夫と私が行かせたい学校はほかにあつたのですが、本人の気持ちを尊重しました。いま、本当に楽しそうに通学しているので、自分で本能的に合う所を選んだのだなと思います。

C（母）学校説明会で「我が家はどんな生徒も見捨てずには徹底的に話し合います」とい

のは僕自身ですが、その助言が5年連続で増加しています。研究部の活動にのめり込み、成績は下降の一途（笑）。数学にいたっては400人中396番だったこともあります。高校2の冬に念発起した僕は、中學受験の成功体験を思い出しました。ひたすら復習に励むことに地道に基礎学習を繰り返すうちに、高3の秋から成績が伸び始め、模試の判定もD判定からAにB判定へ。どうにか東大合格を果たせました。

振り返ってみると、中学受験も大学受験も、僕に合った勉強法——繰り返し復習をして苦手分野を消していく——は同じでした。でも、小学生時代の僕がそつだつたように、自分に合う勉強のやり方を見出し

う話を聞き、息子が「絶対にこの学校がいい」と。うちの子は保育園の頃から若干周りのペースと合わないところがあり、注意される度に傷ついていました。本人が教育方針に強く引かれたことが決め手になりました。

金子 皆さんと共に通しているのは、保護者が志望校を指示するのではなく、お子さんが主体的に選んだという点です。これは、中学受験を乗り切るうえでとても大事な要素だと思います。

C（母）息子は塾に通つていました。そのため、国語と社会が全くダメ。復習もしないのでさらには出来なくなるという負のスパイラルに陥っていました。そこ

ともありました。そんな時は、「この学校の制服を着たいんだよね？」と言つてモチベーションを高めるようにしていました。

D（父）成績が伸び悩んでしまつことがあります。すると息子が「そんな風にけんかになっちゃう」と。子どもに見せてはいけない姿でしたね。

E（母）我が家は息子も5年生の終わりに、塾をやめたいと合っていたのだと思います。

F（母）我が家が家庭教師の先生に相談したところ、「今まで君が頑張ってきたことはわかるよ」と二言。その言葉に、息子の目が「もう一回やってみよう」とキラッと輝いたのを覚えています。その後も言い争いは絶えませんでしたが、徐々に

事態は変わらず。娘が以前お世話になっていた家庭教師の先生が、娘が頑張ってきたことはわかるよ」と二言。その言葉に、息子の目が「もう一回やってみよう」とキラッと輝いたのを覚えています。その後も言い争いは絶えませんでしたが、徐々に

G（母）娘はとにかく算数が苦手で、机の前から逃げ出してしまうこともしばしば。強引に連れ戻しながら、「この子には無理なのかな」と思つて

いたのです。しかし御三家の中には英語入試は実施しないと明言している所もあり、受験校併願校選びは慎重に行う必要があります。

は欠かせません。そこで、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむしゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。

やる気が出る環境は人それぞれ違います。リビングで勉強する、自習室に行く、好きな科目から始める、時折散歩に行くなど、個々人に合ったやり方を探してみてください。

たり、弱点に気づいたりするこ

とは、12歳程度の子どもには到底不可能だと思うのです。中學受験を乗り越えるには、子どもの性格や理解度を見

極めて適切な「マネジメント」をする周囲の大人や親の存在

は欠かせません。そこで、弱点に注意してほしい点がいくつもあります。まず、子どもにかける「言葉」。「がむ

しゃらに頑張れ」と曖昧なことを言つても、何をどうすればいいのかわかりません。

だから「数字」との向き合いを解き直すなどのように具体的に示すことが大切です。それから「数字」との向き合い

方。他人の動向に左右される「偏差値」や「順位」を過度に気にするより、「正答率」が高

いのに間違えてしまった問題を見直す方が賢明です。そして、勉強に向かう「気持ち」。